

私たちが失いたくない「豊かさ」とは何だろう。

(この話を読んで感じたことや、あなた自身が味わっている「豊かさ」についても書いてみましょう。)

自分もブタのようにただ大食しているところもあると思った。

いただきますや、ごちそうさまを言って終わりなのではなく、しっかりと食べているときも、味わうことを大切にしていきたい。

何を食べるのが使うのかということは一々人違ってくるけど、そのものの価値を理解できるようになりたい。

ただ無感動、無関心にやたら使っては捨て、使っては捨てても、用えて貧しくいやしいという文はたかたかと思った。

1つのものを大切にしたい。思い出も使っていくということも大切にしていきたい。

学校とかでは時間もかぎられていて、そのなかで「深いところまで考えるのは難しいことだけれど」しっかりと意識して、本当の豊かそうな生活が、できるようにしていきたい。

どんな事物にも苦勞や思いがある。たとえば野菜とかは、給食に出るけれど、好嫌とか簡単に残すけど、給食センターの人達の思いや野菜を作った農家の労働がおいしく食べてほしいとかいう思いを、意識できていないからだと思います。他にも消しゴムとかは穴とか空けたりちぎったりしている所をよく見ると、食べ物と一緒に作った人の思いとかもあるけど、それをしてすぐに新しいのを買ったか捨てたかという軽い考えがあたり前になってきているからだと思います。新しい物とかくれるのは豊かさではなく貧しさである事にはとしました。日々食べ物や物を粗末にしない事をおそれ、いろいろと今回の話を読んで心の豊かさという視点から見ると、自分は豊かな心でいたいから、いろんな物やできる事の思いや意味を感じとれる自分になりたいです。

人の心も、同じで思っている事とかを、しっかりわかるような豊かな心を目指していきたいです。

本当の豊かさは、金や高価なものが、そういうものではなく、思い出や、感じる事だと思った。確かに、日々の中で使った物には必ず買った時の思い出、なぜ買ったか、そして何を表しているかといった思いが詰まっているはずだし、そこにしかない思いこそが豊かさだと思ふ。筆者の言う通り、人々は季節感を失ってきているし、春夏秋冬何も思わずに、感じずに生きてるのは時間のムダだと思ふ。その時にしかできない事、その時にしか感じれない事を楽しめば、少しは日々の感じ方が変わってくると思ふ。僕は、学校の時にしか味わえない感情をここから改めて感じれるようにしていこうと考えた。

この話を読んで、食べ物や、物の大切さが分かりました。

今の私たちに、そのもの1つ1つの存在が当たり前になっていて、消えない、壊れないなどといった自信からそのものに感謝できなくなっていると思います。私たちが失ってはいけない豊かさは、ありがたみを持つことだと思います。この先、ありがたみを持つことなく生活をしていくと、感情そのものを失ってしまうと考えたからです。だから私は「あつ当たり前」で「消えない物」と思はず生きていきたいと思いました。

「豊かさ」とは、いろいろなことに対して、五感を使って、考えることなのかなと思った。例えば、四季の変化に対して、視覚を使うと、植物の変化や色の変化に気づくことができる。聴覚を使うと、鳥や虫の鳴き声の変化に気づくことができる。嗅覚を使うと、四季の匂いの変化に気づくことができる。味覚を使うと、季節の食べ物の変化に気づくことができ、りんごの話のように一つの食べ物の味からいろいろなことを考えることができる。触覚を使うと、気温などを感じられる。四季の変化だけでこんなにも感じ、考えられることがあるということは、毎日に気づきがあるということだと思う。でも、私はそれらに気づけず、何も考えずに過ごしてしまっているんだと知った。もっと五感を使って自分の日常を少しでも豊かにできたらいいなと思った。

トット子さんのりんごでも、電気スタンドでもその人にとっては大切なもので他人や周りの人が価値を求めらるものではない。例えば、使い古したハイカキヤぼろぼろになってしまった服などをもっている人を見ると周りには「ケチ」や「節約」と言うかもしれないけれど、それはその人にとっての「豊かさ」の表れだと思った。生活が豊かになるということは物に困らないということではなく、いかに生活を楽しめるかということが変わってくるのかなと感じた。生活を楽しむためには、日々季節を感じながらだったり何かに関心を持ったりすることが大事だと思う。今の私は、毎日流木していくのを見て過ごしているだけで周りを感ぜていないし、関心を持っていない。少し忙しい受験期というものもあるけれど周りに目を向けて過ごしていきたいなと思った。

最近、家庭でこのように出来事がありました。学校のソックスを捨てるか持てないうかが
継当てもして欲しいと子供の言う。母の母は消耗品だから捨てるよと言う。
いろんな事を考えたが、子供の意見を尊重しました。子供なりにしっかり考えを持って
いて、嬉しく思いました。親は親で教えられず、日々の忙しさにかまけて、
失なわれていってるなとしみじみ感じ、それぞれの量を忘れないうちに、いい欲しい
もの

私自身も最後の文章「四季の変化をなくすことに熱中している」として、それを「進歩」と
と考えているより「豊かさ」との言葉が、心にぐさぐさときさきさきよりでいた。正確かに、
それがあとソ前のように生活してはなと。今改めて、「豊かさ」「ぜいたく」とは何かに。
気分さか、思ってたさかによりに思います。そして、その感覚を大事にしたいと。

個々に幸せを感じる時の感じ方は違いますが、貧しくても不幸せ。逆に裕福なほう幸せ。どちらも
本人の生活に上り下りの促さか下はあつようか、食べ物や生活に上り下りの機器などが
充実する現状に於て、有難さか欠乏さか下の子様に思います。生活に上り下り、何事も当り前に
思わないで、やにとこれだつた人達が従事してゐることを感謝、食へる、使う事に考えをめぐらして思います。
1個の物、1つの物に於て、手に入る(食べれる)事に感謝、奇持ちを探る事を望みます。

モノや情報で満たされた時代で、生まれ育った子供へ「豊かさ」とは何かに、伝える
時、正直、悩みました。親世代も同じ感覚を持っているからで。そして、
伝わりにくい子供達と育てた側です。自分達も一緒になって、先ず「感謝」を
感じ、忙しさに追われる中でも心の余裕を持つ時間を大切にしたいです

(おばあちゃんのおぼろげな感想)
毎日、30分のウォーキングは月課にしています。クマの向花、花毛、桐葉、秋
うぐいすの草など自然の豊かさを感じています。最近では「おたないない」「大
に使おう」という言葉を聞くことも少なくなりました。物があふれ過ぎだと思ふ。

昔の人の方が心は豊かであったのではないかと思ふ。豊かさを生活に
求めたために、本当に大切な物を失ってきたのかもしれない。今の便利な
生活を失うことはできないけれど、せめて、温かい心、感謝の心は
なくさず、もっていたいと思ふ。